

仲代達矢を悼む

校長 武井 正明

昭和が生んだ名優、仲代達矢が亡くなった。92歳生涯現役、6月まで舞台に立っていたという。親父が亡くなり、長嶋茂雄が亡くなり、仲代達矢も逝った。今年は自分の好きな人が亡くなる年なのかもしれない。そうやって、令和7年も静かに暮れていく…。

吉中の皆さんは、仲代達矢といってもピンと来ないだろう。きっと君たちの親御さんや吉中の先生方も、殆どご存じないかもしれない。でも皆さんのおじいちゃんやおばあちゃんは、きっと知っているはずだ。仲代達矢は、その圧倒的な演技力と存在感で、右に出るものがないほどの大俳優だった。

私が仲代達矢と本格的に「出逢った」のは映画「人間の条件」の映像の中の、若き日の仲代だった。私は一瞬で、仲代の、あの大きな、潤んだ眼に吸い寄せられていった。ホンモノの役者とは、台詞ではなく眼で、総てを表現するものなのだろう。

この映画は全6部構成の計9時間36分に及ぶ大作である。

戦争や軍隊という不条理な世界の中で、自分の信念に誠実であり続けようとする、主人公・梶を仲代が熟演した。妻役の新珠三千代が、凜として美しかった。徹底的に辛酸をなめつくし、愛する人と引き離され、究極の地獄の底で、最後は吹雪の荒野で、物乞いをしながら、ひとり孤独に息絶えてしまう、何の救いもない物語だ。

この作品は、自らの従軍体験を基にして五味川純平が発表した、1300万部を超える大ベストセラーである。私は三十代前半で初めて読んで、大きな衝撃を受けた。

そして、妻がお盆で実家に帰っている間に、ビデオを借りてきて、ぶっ通しで一気に観たのだ。私は画面に釘付けになり、何も食べずに9時間半があっというまに過ぎた。

あらためて「人間の条件」は、日本人なら見なければいけない映画だと思う。

山崎豊子の「大地の子」では、主役の陸一心を上川隆也が好演し、中国残留孤児の実の父親を仲代達矢が演じた。これも何回も読み、何回も見た。製鉄会社に就職した弟は、会社から、必ず見るように指示されたと聞いた。

仲代の訃報に、中国外務省の報道官が即日哀悼の意を示した。台湾に関する高市首相のコメントに対して、大きく反発している最中に、である。中国がこのコメントが出したこと自体が、いかに仲代達矢に対して、中国が多大の敬意を払っているかが窺える。

仲代達矢について、見ていない作品が、まだまだいっぱいある。「影武者」「椿三十三郎」折に触れて、映画の中の仲代達矢に、また会いに行こうと思う。